



「さけ（鮭）」への支出

一家計調査（二人以上の世帯）結果より

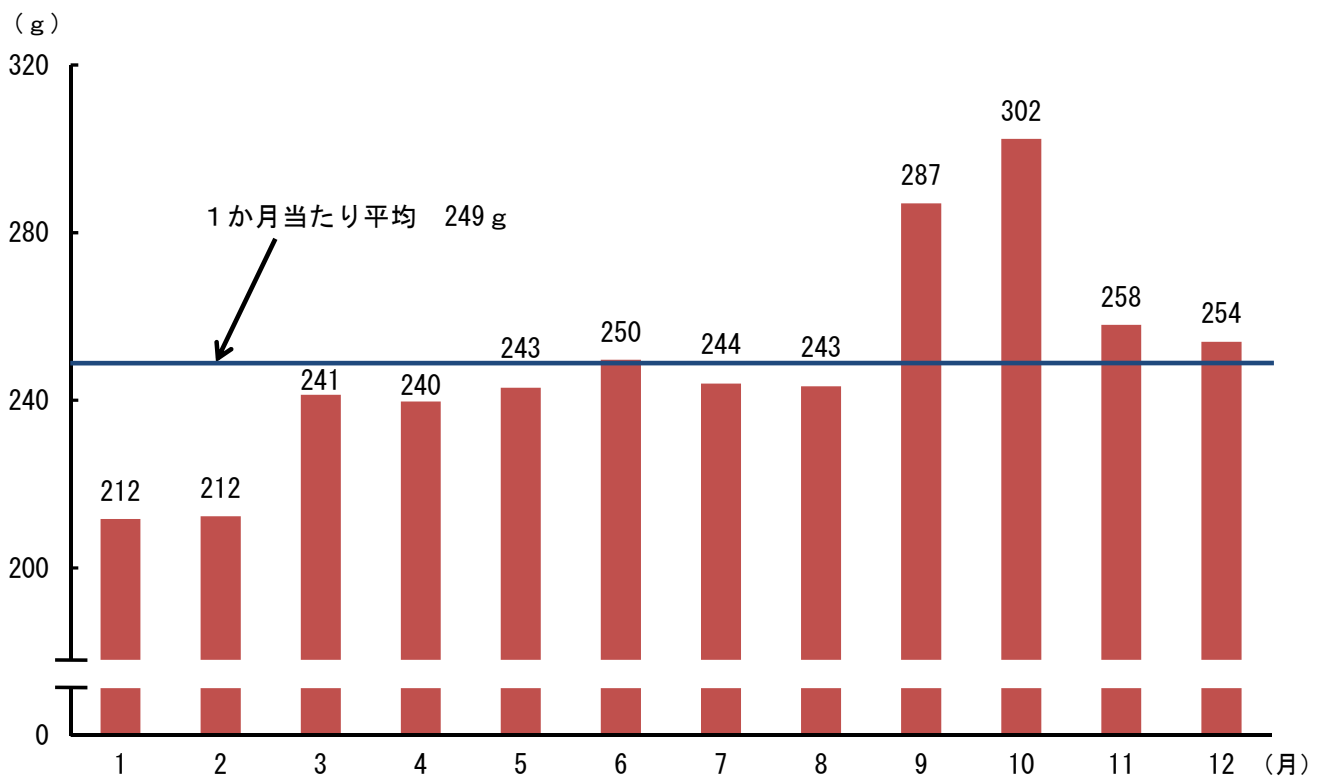


9月も半ばになると、徐々に秋の足音が聞こえてきます。秋が近づくと様々な色合いをした秋の味覚が食卓を華やかに彩ります。秋に美味しい魚といえば「さんま」が有名ですが、「さけ」も秋から初冬にかけてが旬。日に日に季節の変化を感じるこの時期に、あの切り身の橙色の彩りはぜひとも欲しい一品です。そこで、今月は「さけ」への支出について、家計調査の結果から見てみましょう。

やはり秋に多く買われている「さけ」

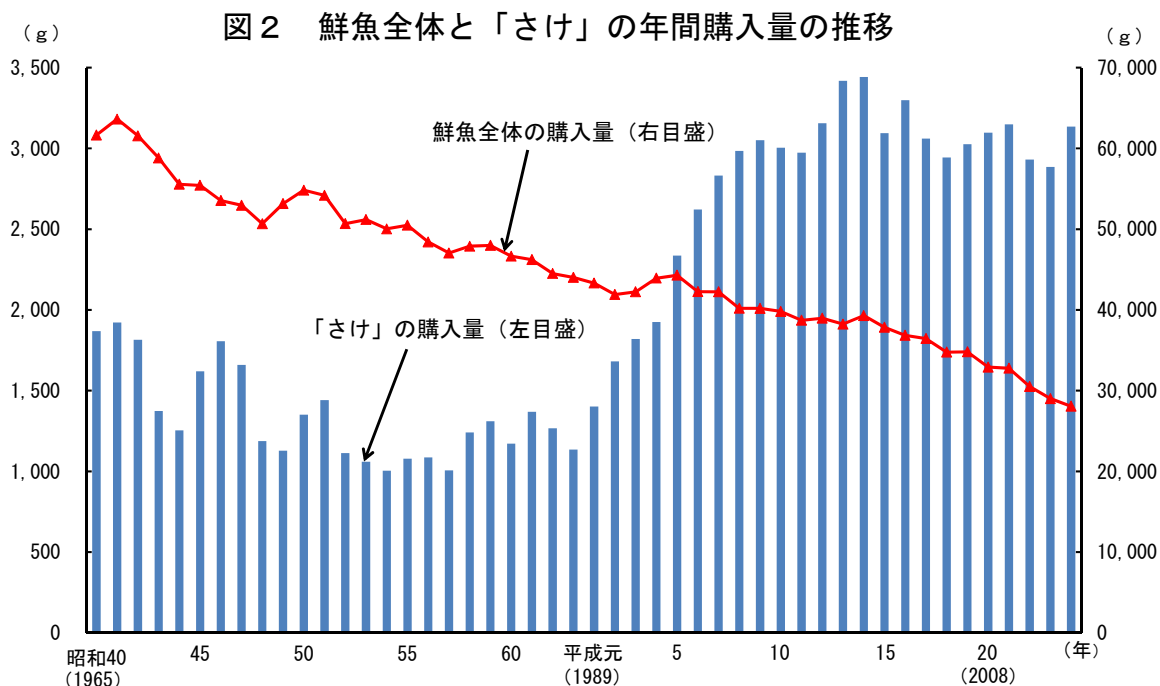
1世帯当たりの「さけ」の月別の購入量（平成22～24年平均）を見てみると、9月から10月にかけて多く買われていることが分かります。スーパーなどで季節を問わず一年を通してよく見かける「さけ」ですが、やはり秋が旬であることが家計調査の結果からもうかがえます（図1）。

図1 「さけ」の月別購入量（平成22～24年平均）



魚離れが進む中、「さけ」の購入量は増加傾向

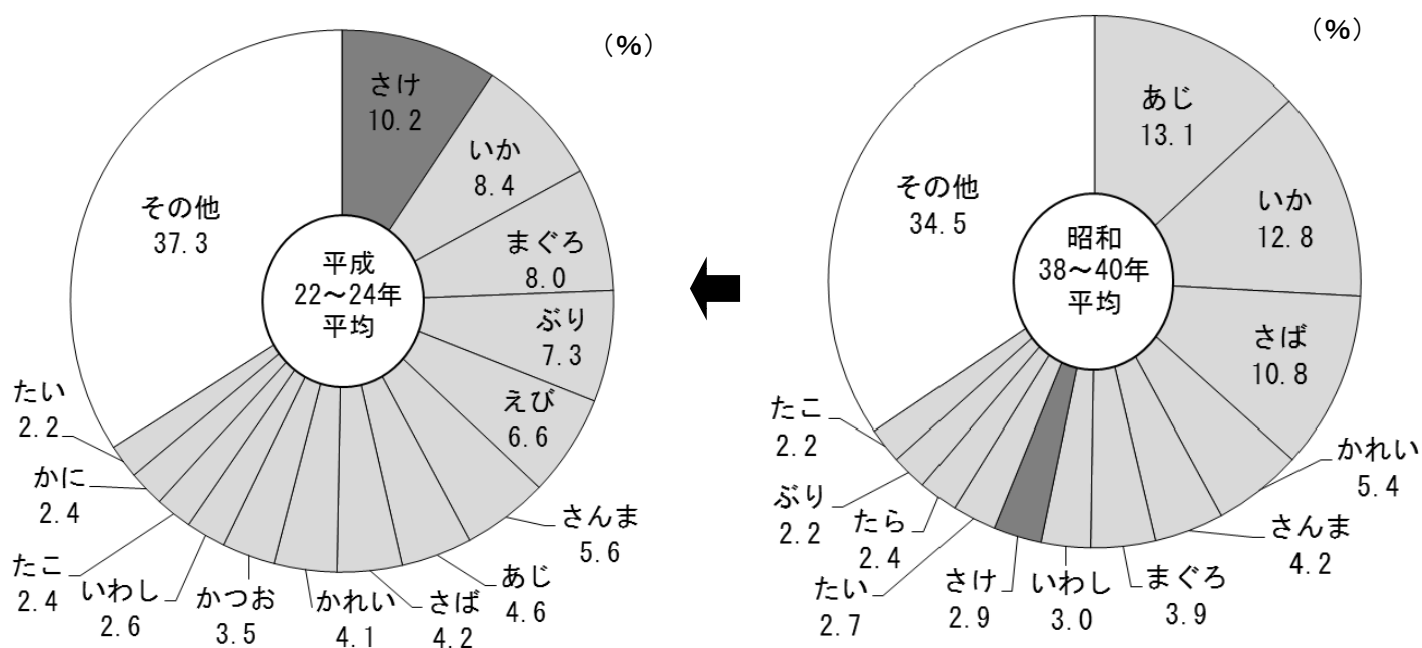
1世帯当たりの「さけ」の年間購入量の推移を見てみると、養殖の生産量や輸入量の増加などにより価格が低下したことなどから、平成元年以降購入量が大きく増加し10年間で2倍以上になっています。一方、鮮魚全体の購入量は減少傾向で、平成24年（2012年）には約50年前の昭和40年（1965年）の半分以下となっています（図2）。



鮮魚の中で多く買われている「さけ」

1世帯当たりの鮮魚全体の年間の購入量に占める「さけ」の割合を見てみると、平成22～24年平均では10.2%と最も多くなっています。これは昭和38～40年平均の2.9%と比べて約3.5倍となっており、約50年の間に食卓にのぼる鮮魚の移り変わりがうかがえます（図3）。

図3 鮮魚の品目別の購入量の構成比



※「その他」には、構成比2%未満の鮮魚や「他の鮮魚」・「さしみ盛合わせ」が含まれている。